

第20期 第8回町田市立図書館協議会次第

■日 時：2024年12月20日（金） 14：00～16：00

■場 所：町田市立中央図書館 6階中集会室

■次 第：

- 1 図書館評価について【資料1－1、1－2】
- 2 若者の図書館利用促進について【資料2－1、2－2、3－1、3－2】
 - （1）審議のまとめ
 - （2）図書館の取組報告
3. 図書館からの報告事項【資料4、5】
4. その他

2024 年 12 月 20 日

町田市立図書館長

中嶋 真 様

町田市立図書館協議会委員長

松本 直樹

町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告

1 はじめに

町田市立図書館協議会は、2024 年 8 月 1 日付文書「2023 年度図書館評価の外部評価について(依頼)」に基づき、「町田市の図書館評価」の外部評価機関として、2023 年度の評価を実施しました。以下、その経過並びに評価結果を報告します。

2 外部評価の実施方法・スケジュール

『町田市生涯学習推進計画 2019-2023』事業実績(2023 年度分)における図書館所管分、全 14 項目について、外部評価を実施しました。

(1) 方法

- ① 評価は全ての委員で担当する
- ② 全取組項目を 3 グループに分け、グループごとに複数の委員で評価案を作成する
- ③ 全委員で全項目の評価案の確認を行い、外部評価を確定する

(2) スケジュール

2024 年 8 月 1 日	第 20 期第 6 回定例会で図書館外部評価の依頼を受ける 担当事業について説明を受け、評価案について検討 その後、8 月中に各自評価案を事務局に提出
2024 年 9 月 27 日	第 20 期第 7 回定例会で評価案の全体確認及びグループに分かれて意見交換 その後、10 月 22 日までに評価最終案を事務局に提出
2024 年 12 月 20 日	第 20 期第 8 回定例会で評価案と外部評価に関する報告の内容を最終確認及び提出

3 外部評価の結果

『町田市生涯学習推進計画 2019－2023』事業実績(2023 年度分)における図書館所管分、全 14 項目について評価を実施し【評価】と【関連事項提言等】を記載しました。

4 全体に関わる評価と提言

(1) 全体に関わる評価

図書館による取組実施及び評価は全体として課題の残るものでした。事業実績報告の「達成状況」を確認したところ、A は 7、B が 4、C が 8 で、D はありませんでした。2022 年度と比較して A と B が減少し C 評価が増えています。前年度の評価も顕著に優れたものではありませんでしたので、そのことを加味して評価すると、事業の取組状況は決してよいとはいえません。次年度以降は、PDCA サイクルが適切に機能する仕組み作りを求めたいと思います。

図書館予算については、近年、繰り返し増額を求めてきましたが、2024 年度の資料購入費(予算)は 47,823 千円であり、2023 年度とほぼ同額でした。資料購入費が長期的に低迷する中で、市民一人あたりの年間貸出点数(貸出密度)は 6.82 冊と回復の兆しが見えませんが、資料 1 冊あたりの年間貸出回数(蔵書回転率)は 2.52 であり、10 年前(2014 年)と比較して 74.6%と低迷しています。引き続き図書館として予算確保に向けた積極的な取組みを期待します。

(2) 外部評価実施全体に関わる提言

外部評価を実施した結果、全体に関わる事項として、以下を提言します。

1) 図書館評価に関わる課題

町田市の図書館評価の実施方法は、他自治体と比較しても、充実しています。特に、図書館協議会委員が図書館職員から詳しく事業の実施状況を聞いた上で、評価をしている点は、優れたものです。次期の図書館協議会でも現状の図書館評価の枠組みを維持発展させ、よりよい図書館作りの基礎としてもらいたいと考えます。

2) 評価活動の課題

これまでの評価においては、以下のような課題を指摘してきましたが、改善が十分ではない点も見られます。今後の評価の枠組みおよび外部評価のあり方を検討する際、これらの課題への対応を求めます。①外部評価における十分な時間の確保と、新委員に対する事前の説明：以前と比較して、図書館協議会の開催回数が減少し、また、議題が多くある中で、外部評価のための時間が十分とれず、図書館協議会委員間の議論がしっかり行われない状況があります。また、新委員は協議会委員就任直後に外部評価に携わることになるため戸惑うこ

とが多くあります。②アウトプット・アウトカムの指標化：目標としている指標の多くが経営資源のインプットに関わるものです。事業の目的との関係から適切なアウトプット、アウトカム指標を設定することが期待されます。③評価に対するフィードバック：PDCA サイクル、OODA ループにおいて「評価」は事業改善のために不可欠な要素です。このことについて、図書館側より積極的な取組みが行われてきましたが、今後も継続して業務改善に活かす仕組み作りを期待します。

3) 各図書館の取組の見える化

現在の図書館評価は、『町田市生涯学習推進計画 2019－2023』の事業実績に基づいて行っていますが、この枠組みでは、図書館ごとの取組状況については、必ずしも明確ではありません。したがって、各図書館における取組状況の見える化を提言します。現状、「課別・事業別行政評価シート」によって、各図書館の状況の一端を知ることができます。

こうした情報も評価の際、評価資料として提供することを望みます。また、この資料は、財務的な観点から効果性・効率性を中心に整理したものです。それは図書館が目標とするものとは必ずしも一致しません。PDCA サイクルの観点からは、各図書館の目標とその達成状況に関わる資料を作ることも考えられます。

4) 多面的な評価

図書館サービスのアウトプットは指定管理館を含めて以前と比較して低下しています。アウトプットの代表的指標である貸出点数は、2013 年度を 100 とした場合、2022 年度は 75.2%、そのうち指定管理館である鶴川駅前図書館は 64.4%です。近隣市では、それぞれ相模原市 76.3%、八王子市 81.4%、大和市 124.7%、横浜市 111.4%、多摩市 84.1%であり、いずれも町田市を上回っております（データは日本図書館協会『日本の図書館 統計と名簿』から）。

現状の評価は、図書館の全体的なパフォーマンスに関して、他自治体との比較や経年的比較は行われておりません。今後は、短期・長期、他自治体との比較等、多面的で総合的な評価も期待されます。

5. 結び

図書館協議会は、「2023 年度図書館評価」の外部評価機関として評価を行いました。今回は、現在の評価方法での最後の評価となります。上記に述べたような課題はあるとはいえ、これまで、図書館によりさまざまな改善も行われてきました。このことは大いに評価できます。今後も、市民のための図書館として、よりよい活動に結びつくよう、評価のあり方を改善していくことを期待します。

■取組2-3 子ども読書活動の推進【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	生涯にわたって主体的に読書をする習慣を身に付けることができるよう、子ども読書活動の推進に関する全市的な取組をまとめた「第四次町田市子ども読書活動推進計画（2020年度～2024年度）」を策定・推進します。特に、子どもの読書活動に合わせた図書資料の充実とともに、小学校英語の教科化などの動向を踏まえ、外国語の絵本・児童書等を重点的に整備します。				
これまでの取組	第三次町田市子ども読書活動推進計画（2015年度～2019年度）に基づき、庁内各部署で計32の取組を実施するとともに、計画の進捗管理を「子ども読書活動推進計画推進会議」を通じて行っています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①第四次町田市子ども読書活動推進計画の策定		第三次計画に基づく事業の実施	策定完了（2019年度）	
	②外国語の絵本・児童書の蔵書数		3,966冊	6,500冊	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	第四次計画の策定	第四次計画に基づく事業の推進 推進会議を通じた事業の進捗確認の実施			
	外国語の絵本・児童書の計画的購入・活用 利用状況等の検証				利用状況等の検証
年度目標（指標①）	第四次計画の策定完了	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認
年度目標（指標②）	4,500冊	5,000冊	5,500冊	6,000冊	6,500冊

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	・2019年度に策定した「第四次町田市子ども読書活動推進計画」の事業を推進するため、2023年度は7月と1月の計2回、町田市子ども読書活動推進計画推進会議を開催し、結果を図書館ホームページに掲載しました。 ・2025年度からの「第五次町田市子ども読書活動推進計画」の策定に向けて、検討スケジュールや進捗状況等を会議に諮りました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	・外国語児童書の充実に向けてふるさと納税を活用したことにより外国語の絵本・児童書の蔵書数が約8,000冊となり、目標値を大きく上回りました。 ・英語図書の活用や英語多読の周知のため、英語多読講演会を2回開催した他に、保護者向け（親子で参加）英語絵本の読み聞かせ講演会を開催しました。親子11組の参加がありました。講座では、電子書籍「Read Along」や多読コーナーのPRを行いました。
課題	・2024年度中に第五次町田市子ども読書活動推進計画を策定する必要があります。また今後は、国の計画において求められている、デジタル社会への対応や子どもの視点（同世代の若者で行う取組や子ども・若者の意見の取入れなど）、多様な子どもたちの読書機会の確保が重要となります。 ・英語絵本の貸出が進むように、PRの検討が必要です。
今後の取組の方向性	・2024年度中の第五次町田市子ども読書活動推進計画の策定に向けて、国の計画において求められている点を踏まえながら、町田市子ども読書活動推進計画推進会議に諮っていきます。 ・英語絵本の貸出が進むように、PRを行います。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

- ・①「第四次町田市子ども読書活動推進計画」の策定、②外国語の絵本・児童書の蔵書数 このどちらも目標を達成しており良いと考えます。特に、②に関しては目標値を大きく上回っていることから、非常に良いと考えます。
- ・②の主な取組である英語多読講演会は、全体的に満足度の高い講演内容となっていることや、多読本の大事なPRの場となっていることから評価します。今後もプログラムの内容を状況に合わせて検討しながら、ぜひ続けていってほしいと考えます。
- ・「第四次町田市子ども読書活動推進計画」による事業実施の目標に達したことは評価できます。町田の子どもに「読書の楽しさ」が広がることをさらに期待します。
- ・「えいこのまちだ」周知のため、各種の催しを行っていることは評価できます。「子どもと一緒に英語絵本を読もう」の実施報告にあるように、開催にあたっては、更なる緻密な業務計画が必要であると考えます。
- ・第五次では、目標値の低さが気になります。現状を鑑みた議論による結論ですが、目標に向けてたゆまぬ努力をさらに期待します。

【関連事項等提言】

- ・課題にもありますが、②の英語多読講演会の開催によって、多読本の周知は広がっていますが、今後、ただ手に取るだけでなく実際に本の貸出につながるPRをするよう提案します。
- ・ふるさと納税で購入した英語絵本がもっと利用されるようさらなる魅力の発信が必要です。
- ・外国語資料の貸出数の推移についての資料があるとよいです。
- ・絵本・児童書・書籍・資料などの計画的購入と提供は読書活動の中核です。計画以上に目標を達成した事は明らかですが、英語外の書籍つまり他言語による情報の提供や共有等も今後の課題だと考えます。
- ・読書バリアフリーについて、よりしっかりと考え、様々な障がいのある人達や外国にルーツのある市民への読書支援が一層必要だと考えます。
- ・DX対応について積極的に推進されていることが明らかですが、今後AIの発展に伴い、会話型AIであるChat GPTのより積極的な活用などが強く求められると考えます。その面で施設としてのWi-Fiの強化等が必須です。
- ・子ども読書活動推進計画において、様々な障がいのある子どもたち（市民も含めて）の読書バリアフリーの推進と対応を一層図ることが必要です。
- ・全体に読書活動の推進に前向きな点を評価しますが、「町田市教育プラン24－28」の主旨に沿って、より学校教育と社会教育の橋渡しを読書や読書活動を通して推進していくことを期待します。

■取組2-4 学校図書館との連携強化【◇】	図書館
-----------------------	-----

事業概要	小・中学校の学校図書館への支援や子どもの読書活動を充実させるために、図書館から学校図書館への貸出のしくみを改善するなど、支援方法を見直して、学校図書館と図書館との連携を強化します。				
これまでの取組	さるびあ図書館を拠点に、「学校図書館支援貸出」（しらべ学習等に対応して、図書館が選書を行って提供する）により、小・中学校の学校図書館へ本を車で配本するサービスを行っています。また、学校図書指導員への研修に協力しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①学校図書館支援貸出利用校数	35校	42校		
	②学校図書館支援貸出数	3,768冊	4,500冊		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	▶ 学校図書館支援貸出の実施				
	▶ 新たな支援 内容の検討	▶ 貸出方法等の改善 新たな支援の実施			▶ 支援内容 の検証
年度目標 (指標①)	35校	37校	39校	40校	42校
年度目標 (指標②)	3,800冊	4,080冊	4,220冊	4,360冊	4,500冊

<2023年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	C おおむね目標を達成した
取組状況 (指標①)	・学校図書館支援貸出は23校に実施しました。 ・学校図書館支援貸出が利用しやすいように、「テーマ別貸出セット」として、「じどうしゃくらべ」や「伝統工芸」などのテーマで追加購入しました。 ・新たな学校図書館への支援方法として、電子書籍の利用IDを付与しました。これにより、市内のすべての公立小学校と中学校が電子書籍サービスを利用することが可能となりました。
達成状況 (指標②)	C おおむね目標を達成した
取組状況 (指標②)	・学校図書館支援貸出の冊数は、2,188冊でした。 ・学校図書館への新たな支援方法として、2023年9月に市内すべての公立小・中学校の児童・生徒へ電子書籍サービスの利用ID付与を行いました。児童・生徒のIDから65,514点の貸出がありました。
課題	・学校図書館と連携をしながら、学校図書館支援貸出の利用について改善を進めていく必要があります。 ・学校図書館において、電子書籍サービスなど学校図書館支援貸出以外のサービスについても利用しやすいように検討する必要があります。
今後の取組の 方向性	・引き続き、学校図書館支援貸出や学校図書指導員への研修協力などを通して学校図書館の連携を進めていきます。 ・電子書籍サービスについて、学校からの意見を反映できるように取り組んでいきます。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】・

・学校図書館支援貸出が23校と、昨年ベースから3校減少という結果になりました。目標値として掲げている42校の約半数となっており、より積極的な周知活動を通して貸出校数を増加させていく必要があると考えます。テーマ別貸出セットは活用の際とても選びやすく良策だと思いますので、電子版等も含めラインナップの整備を進め、周知していくとよいと思います。

・学校図書館への新たな支援方法として、全児童・生徒への電子書籍サービスの利用IDを付与したことはとても良かったと思います。その結果、65,514点の貸出があったことは、今後の電子書籍の学習利用の可能性が大いに広がったことを意味します。著作権や許諾の課題は多々あると思いますが、電子書籍の冊数をあらゆるジャンルで増やしていくことを学校現場として期待します。

・学校図書館への支援貸出冊数は前年度比700冊弱減となりました。電子書籍の貸出冊数が伸びた反動もあると考えますが、紙媒体としてのメリットを学校現場に落とし込めていない現状が見られます。

【関連事項等提言】

・各校に配置されている図書指導員への研修や周知活動を通して、あるいは学校に直接出向いて、出前授業や紙媒体に触れる機会を増やすようなイベント等を企画し実施していくようなことも、検討していく必要があると感じます。年度目標冊数の設定も、今後益々台頭してくる電子書籍版と合わせた貸出目標にしていくなど、柔軟に考えていく必要もあるかと思えます。

・電子書籍サービスの学校活用については確実に増えてきているので、今後も引き続き電子書籍数を増やし、学習活動での利活用に十分耐えうる書籍の質と量の確保をお願いしたいと考えます。

■取組2-5 生涯学習施設の利用促進	文化財係・自由民権資料館・生涯学習センター・図書館・文学館
--------------------	-------------------------------

事業概要	より多くの市民に生涯学習施設を知ってもらい、幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、市内外の各機関と連携したPR活動を進めます。			
これまでの取組	リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信を行っています。			
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①連携して行うPR活動件数	4件	10件	
	②SNS発信数	219回	800回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	新たな連携先の検討・調整	新たな連携先とのPR活動の実施	検証	検証結果に基づくPR活動の見直しと実施
	SNSを利用した情報発信			
年度目標（指標①）	5件	6件	7件	8件
年度目標（指標②）	520回	610回	670回	720回

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標①）	- 自由民権資料館で講座・講演会事業を市内各施設で22件実施したほか、生涯学習センター、文学館では庁内他部署や近隣大学・学校、民間団体との連携事業をそれぞれ35件、16件の合計73件実施し、施設の相互PRに努めました。 - 図書館では、移動図書館車が芹ヶ谷公園のイベントや保育園・幼稚園に出張し、図書館のPRを行いました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	X（旧：Twitter）による情報発信を自由民権資料館で124回、図書館で81回、文学館で821回、生涯学習センターで59回実施したほか、文学館ではInstagramによる情報発信も110回実施し、合計1,195回のSNSによる情報発信を行いました。 - 図書館では、Twitterのフォロワー数が毎年増加しており、2023年度には2022年度から88人増加し、1,564人になりました。 - 図書館主催事業の「ひとことPOPコンテスト」の中で、市内5ヶ所の書店にてご協力いただいた「シール投票」について、X（旧：Twitter）にて周知を行いました。複数の書店のSNSでも周知していただきました。
課題	- 幅広い利用者層を開拓するため、施設の実施する講座の内容や実施方法を検討する必要があります。 - それぞれのメディアの特徴を理解し、効果的な活用方法を研究する必要があります。
今後の取組の方向性	- 施設を知ってもらうため、アウトリーチ事業の充実や動画などのデジタルコンテンツの作成に取り組みます。 - ホームページやX（旧：Twitter）などのSNSで情報発信を積極的に行うとともに、SNSとHPの連動やX（旧：Twitter）以外のSNSの活用など、情報発信の方法を検討していきます。 - 施設への関心をつなぎとめられるよう、継続的に提供している情報の充実を図ります。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

- ・計画以上に目標を達成しており、特に市内の書店との連携は高く評価できます。
- ・②に関して、フォロワー数は増加しており、力を入れて取り組んでいたことは伺えますが、40万という市民の数を考えると、今後どのように閲覧数、フォロワー数を増やしていくのか工夫が求められると思います。

【関連事項提言等】

- ・X（旧Twitter）だけでなく、Instagramを使うといったことも考え、メディアの特徴を捉え、定めたターゲットに合う方法、見たくなる仕掛けを作り、情報発信を行っていく必要があると思います。
- ・生涯学習施設の活動に関しては、様々な人のネットワークの中で使われることが大切ですので、紙媒体やインターネットでの情報発信の機能を高める必要があると考えます。
- ・今後も民間の力を借りる情報発信をもっと提案、実践していただきたいです。

■取組2-6 読書普及事業の充実	図書館
------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及により、読書量が減っていると言われていいます。小学生以下の子どもの読書のきっかけとなる事業や、中高生を対象とした図書館に足を運ぶきっかけとなるイベントを行うなど、18歳以下へ向けた取組を強化します。				
これまでの取組	小学1年生を対象に「としょかんいちねんせい*」を実施しました。小学校高学年、中学生、高校生を対象にPOP（本の紹介カード）を応募する「まちだライブ・ラリー」を実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	18歳以下の方の利用登録につながる事業数		2事業	4事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	3事業実施		4事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	2事業	3事業	3事業	4事業	4事業

*としょかんいちねんせい：公立小学校の新1年生に引換券（兼・利用登録用紙）を配布し、図書館・文学館に引換券を持参した児童にカードケースを贈る事業。

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の11事業を実施しました。 ①「としょかん1ねんせい」では、図書館に登録・更新した558名へミニプレゼントを渡しました。②5、6歳から小学校低学年を対象とした「読書手帳」を配布しました。③中央図書館で実施している中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」は230組563名の利用がありました。④「小学生向け講座～ちょっぴり図書館員になってみよう!」を実施し、10名の参加がありました。⑤YA世代*を対象に、一日図書館員を実施し、4日間で16名の参加がありました。⑥Yシネマ（10代向け映画会）を実施し、10代の参加は2名（総観客数は41名）でした。⑦中高生向け回遊型謎解きイベント「まちクエ2023*」を8月に実施し、50名の参加がありました。⑧MSP（町田創造プロジェクト）とのコラボイベント「飛んで火にいる夏のボードゲームin中央図書館」を行い、13名の参加がありました。また、引き続き若者参画を進めるため、若者の図書館ボランティアとして「図書館プランナー」の募集をし、14名が登録しました。⑨「ひとことPOPコンテスト2023」を実施しました。書店・地域文庫に周知や投票の協力をお願いし、新たに書店2店舗の協力を得られ計5店舗に協力していただきました。応募総数は324名となり、最優秀賞1名、優秀賞1名、図書館協議会賞1名、図書館長特別賞1名が選ばれました。入賞作品はしおりにして市内各所に配布しました。⑩保護者向け（親子で参加）英語絵本の読み聞かせ講演会を開催し、親子11組の参加がありました。講座では、電子書籍「Read Along」や多読コーナーのPRを行いました。⑪文学館では、小学生から高校生までを対象に「ことばらんどショートショートコンクール」を開催し、1002点の応募がありました。
課題	・「図書館プランナー」を中心に、中高生世代が読書や図書館に興味を持ってもらえるようなイベント等を検討していく必要があります。
今後の取組の方向性	・読書や図書館に興味を持つきっかけになるよう、若者の参画を支援・推進していきます。 ・各事業の内容を見直しながら、継続した取り組みを実施します。

*YA世代：ヤングアダルト世代の略で、中学生から大学生ぐらいの年齢層を想定。

*まちクエ2023：まちだクエストの略。謎解きゲームを通じ図書館内を巡ることで、図書館の基本的な構造や、本を借りるだけではない図書館の便利な使い方を体感してもらうイベント。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

・年代別に様々な個性的プログラムを用意して図書館に足を運ばせ、読書普及を促進する仕掛け等の工夫が見られます。昨年度に引き続き11事業を実施するなど実績は高く評価できます。

・「としょかんいちねんせい」の登録・更新が増加し、「ことばらんどショートショートコンクール」はついに応募点数が1,000点を超えました。また「ひとことPOPコンテスト」は前年度の3.6倍の応募数があり、参加書店が増えるなど官民連携して読書普及に向けての取組がなされており、高く評価できます。これらの事業もすっかり定着した感があります。学校等に案内を継続するなど、更なる普及事業の促進を期待します。

・YA世代に向けての取組も徐々に参加者が増えており、「図書館プランナー」、「MSP」とのコラボなど、昨年課題としていた「利用者、特に若者世代の意見を取り入れる」ことに取り組んだ成果と言えます。今後もイベントだけでなく、日常的に利用したくなる場所作り、PR方法についても、検討されることを期待します。

【関連事項提言等】

・デジタルデバイスの使用が当たり前の若い世代へ向けて、紙の媒体である本の良さを実感してもらえるような取組を打ち出して欲しいです。

・学校に行かない選択をしている子どもたちにも情報が届くよう、居場所機能のある活動団体との連携も視野に入れた検討を期待します。また、Dボックスのように特集展示等を行い、日中学校がやっている時間帯でも、当該子どもたちが利用しやすい環境づくりを期待します。

■取組2-7 シニア世代向け事業の充実	図書館
---------------------	-----

事業概要	いつでもだれでも気軽に利用できるという図書館の強みを活かし、地域の図書館で認知症予防の講座を市民と協働して実施するなど、シニア世代が住み慣れた地域でいきいきと健康に暮らしていくための取組を行います。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	シニア世代を対象とした事業数		未実施	2事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	実施検討	1事業実施		2事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	実施検討	1事業	1事業	2事業	2事業

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の5事業を実施しました。 ・まちだ探・探ゼミナールにおいて、「図書館活用講座」を中央図書館にて実施しました（生涯学習センターとの共催）。 ・中央、鶴川駅前、金森、木曽山崎、堺、忠生の各図書館及び移動図書館にて、シニア世代向け特集や認知症関連図書の特集展示等を行いました。 ・堺図書館で大人のためのおはなし会を実施しました。 ・デジタルデバйд解消事業として、はじめてのスマホ体験（8月、10月、12月）を実施し、49名の参加がありました。 ・スマートフォン・タブレット個別相談会（8月～3月）を実施し、134名の参加がありました。2022年度のスマートフォン・タブレット個別相談会は、利用率が全体で52%に留まっていたましたが、実際に相談会場にお越しいただいた方への次回以降の日程のご案内等、情報発信方法を変更した結果、67%に向上しました。
課題	・シニア世代向けの効果的な情報提供方法や事業内容を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・特集展示やイベントについて、継続して事業を実施します。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

・まちだ探・探ゼミナールの「図書館活用講座」は、満足度も高く、図書館に出向くだけでなく、高齢者が外に出て社会とつながるきっかけともなる良い取組です。職員間で課題と参加者のニーズの把握もなされているようなので、今後ぜひ活かしてください。一方、チューターや生涯学習センター職員及び講師の数が受講生数を大きく上回った結果は、需要や効率の点で再考が求められます。また、生涯学習センターとの共催にしたことは、情報共有の観点からも必要不可欠なことと考えられるので評価できます。

・堺図書館でのおはなし会は、シニア世代から直接ニーズを聞けたり、職場体験の中学生との交流があるなど、良い企画です。各館で行うなど地域のシニア層の図書館利用促進に繋がる事業の開催も必要と思われるので、今後に期待しています。

・特集展示により、関連本の貸出も増えているなど、効果が上がっていることを評価できます。認知症予防というテーマを取り上げたことも的を射ていると思います。今後も、ライフステージに応じた情報提供や講座の開催等の準備を期待しています。

・高齢者のデジタルデバイドは、災害・非常事態の情報伝達が届かない、コミュニケーション不全による孤立など様々な問題が生じる懸念から、喫緊の課題です。その中で、図書館、生涯学習センター共に講習会やスマートフォン・タブレット個別相談会を開催（前年度比30名増）し、丁寧に対応されていて評価できます。さらに、講習会の最後には新刊本情報などのページを閲覧させるような構成にするなどの工夫もされるとよいと思います。

【関連提言事項】

・認知症予防の取組に関しては、専門家の意見や認知症サポーターの活用を検討して、講座の充実を図って欲しいです。

・シニア世代こそ、デジタルデバイスに慣れれば生活の質の向上につながると思います。個別相談会が中央図書館だけでは不十分です。長距離の移動が難しい方のために、各館での開催もぜひ検討することが必要です。と同時に、スマホ自体に苦手意識を持つ方へ向けて、必要性を周知する事業も検討してください。

・2024年度は、図書館での個別相談会の実施予定はないとのことですが、アンケートからも満足度が高くニーズがある事業だと思われます。生涯学習センターを紹介するのではなく、2025年度はぜひ図書館で再開することを期待します。

・シニアに直結する話題だけでなく、現代の社会情勢の理解など情報格差を補うような企画も検討してください。

■取組2-8 障がい者サービスの充実	図書館
--------------------	-----

事業概要	通常の活字による読書が困難な人の学びのきっかけとなるよう、マルチメディアDAISY（デイジー）*の貸出を拡充するなど、より対象者を広げた障がい者サービスを行います。				
これまでの取組	視覚障がいなどで活字を読むことが困難な人、寝たきりなどで図書館への来館が困難な人へのサービスを行っています。さらに、視野狭窄などにより読書が困難な人を対象に、リーディングトラッカー（読書補助具）の貸出を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	通常の活字による読書が困難な人を対象とした事業数		1事業	3事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	2事業実施		3事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業

*マルチメディアDAISY（デイジー）：音声と一緒に、文字や絵、写真などを見ることができるパソコンで読む本のこと。

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	以下の3事業を実施しました。 ・マルチメディアDAISY上映会を行い、26名の参加がありました。図書館が所蔵する多様な資料のPRを行いました。若手教員育成研修で資料の紹介と、学校図書館支援貸出でも利用できることを案内しました。マルチメディアDAISY資料は8点増えて合計55点になり、読書が困難な人が楽しめる資料が充実しました。 ・音訳ボランティア経験者向けの技能向上講座を行い、10名の参加がありました。 ・リーディングトラッカーの貸出を行いました。 その他、デージー再生機器*貸出サービス実施検討のため、周辺自治体に対し調査を行いました。また、児童向け点字体験会を行い、25名の参加がありました。
課題	・読書バリアフリーに関するPR活動を効果的に実施する必要があります。 ・ボランティアの担い手が減少しているため、今後の持続的なサービス提供体制について検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・ボランティアとの協力体制を維持し、技能向上の支援を行います。 ・デージー再生機だけでなく、様々な読書支援機器について情報収集を行います。

*デージー再生機器：目が見えない方や本を読むことが難しい方のための「音の本」であるDAISY（デイジー）図書を再生できる専用の機器で、簡単な操作で聞くことができる。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

- ・「マルチメディアDAISY上映会」については、前年度よりやや参加者が減っていますが、募集方法、内容については大変よく振り返りと検討がなされているので、次年度へのブラッシュアップが期待できます。「夏休み子どもフェア」は市内小学生全員配布であり、そこに掲載したことは大きな効果が期待できます。しかし、功を奏しなかったのは、内容に課題があるのか、それ以前に効果を周知するために日常的に利用者に伝わるようなPR方法、告知する場合の見直しが必要だったのか等の、更なる検討を期待します。
- ・マルチメディアDAISY資料が増えたり、周辺自治体への調査など多くの方に利用してもらえるような取組がなされていることは評価できます。
- ・音訳ボランティア講座は、事前に質問事項を募り、具体的な技術向上が期待できる内容で、次回を期待する声が出るなど受講者の満足度も高く、評価できます。ぜひ、今後も継続してください。
- ・「点字でなまえをうってみよう」は、子どもが対象の講座であり、視覚障がい当事者とのふれあいもあり、あたたかな時間であったことは、インクルーシブ社会を目指すうえで必要な取組と評価できます。
- ・事業の目標は達成しており評価できますが、障がい者向けのサービスが充実したと言えるのかは不明であると考えます。

【関連提言事項】

- ・障がい者サービスの充実を図るためには、障害をお持ちの方の生の声を聞く機会があることが必要と思います。図書館主催の勉強会等を通じて理解を深めて的確なニーズの把握を行って欲しいです。
- ・精神、発達障害の方へのサービスの視点が欠けているので検討が必要です。紙媒体の本だけでなく、口に入れても安心な素材、破れにくい布絵本なども検討してください。（ボランティアで作製してくれる方を募集する等）
- ・発達支援学級や発達支援センター、放課後等デイサービス、関連施設へ出向いての上映会等も検討してください。

■取組2-9 図書館資料による情報提供機会の充実	図書館
--------------------------	-----

事業概要	町田市の施策や町田市の魅力をより多くの市民にPRするために、図書資料の展示方法やPRを改善しながら、「本の特集コーナー」による情報提供機会の充実を図ります。				
これまでの取組	2015年度から町田市の施策をPRするための「本の特集コーナー」を市の各部署と連携して行っています。市の施策を市民に役立ててもらうとともに、図書館利用者を増やす取り組みのひとつとなっています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」の実施数		19回	33回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し
年度目標	19回	26回	26回	33回	33回

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	- 各部署からの希望時期が重複した場合は地域館で展開できるよう調整を行い、他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」を87回実施しました（中央図書館28回、さるびあ図書館4回、鶴川図書館3回、金森図書館2回、堺図書館4回、鶴川駅前図書館44回、忠生図書館2回）。 - 特集コーナーの実施に当たり、担当課所管のHP・SNSでも周知を行いました。 - 申込書の改定を行った結果、スケジュールの調整が容易になり、今まで以上に特集の展開ができるようになりました。
課題	特集コーナーを設置できる箇所に限りがあることを勘案しながら、他部署や他機関が希望する時期と場所に極力実施できるよう、調整する必要があります。
今後の取組の方向性	他部署や他機関からの申し込みを最大限実現できるよう、今後も継続して取り組んでいきます。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

- ・「本の特集コーナー」は計画以上に目標を達成しており、評価することができます。資料提供という面で効果的な取組ですので、これからも継続して取り組むべき事業だと考えます。
- ・図書館が情報発信施設として、市の他部署から認知されているという指標にもなっています。

【関連事項等提言】

- ・情報提供機会の充実は必要と思われますが、「提供」という一方的な流れではなく、「情報の収集及びそれへのレスポンス」という双方向の活性化が必要になります。その意味で、特集コーナーへの市民の反応、他部署にとってどんな「効果」があったのかなどの実績も知りたいです。特集コーナーを設けたことで「どのように市民への貢献ができたか」こそが重要なのではないのでしょうか。
- ・意見やアンケートなどは、2次元コードを用いることによって、気軽に投稿できる、使用者がどのように考えているかをダイレクトに受け取ることができるなど、より個別に応じた情報提供ができると考えます。
- ・文学館、国際版画美術館など他施設との協働についても、いっそう積極的に取り組む必要があります。今後設置されるであろう様々な場所や施設を活用する機会も、図書館資料との関係の中で出てくると考えられます。協働に向け、効果的な手段を考え、継続的に取り組んでいってください。

■取組3-8 レファレンスサービスの充実	図書館
----------------------	-----

事業概要	市民の調査・研究を援助するレファレンスは、市民一人一人の学びを深めることができる重要なサービスです。求める資料を見つけることができるように、レファレンスサービスの充実に向けて技術の向上を図ります。さらに、レファレンス事例の公開や、インターネット情報にアクセスできる環境を整備します。				
これまでの取組	レファレンス事例をデータ化し、インターネットで公開しました。基本的な資料を案内する「パスファインダー」を作成しました。調べ物に役立つ情報をまとめた「レファレンス通信」を発行しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）		目標値（2023年度）
	レファレンス事例の公開件数		162件		250件
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	レファレンス事例の公開				
	レファレンス事例の点検と今後の改善方法の検討		レファレンス技術の向上のための改善プラン実施		事例の公開の振り返り
年度目標	190件	205件	220件	235件	250件

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	- レファレンス事例をインターネットで25件公開し、公開件数は延べ304件になりました。 - 国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を25件公開しました。 - レファレンス事例や資料を紹介する「レファレンス通信」を2回発行しました。 - パスファインダー「まちだの自然」「法律情報」の改訂を行いました。 - 新たにレファレンスカウンターを担当できる職員の養成を行ったり、都立図書館等の研修に参加してスキルアップを行いました。
課題	- レファレンス事例については、利用者の調べ物に役立つよう、引き続き幅広い分野について公開していく必要があります。特に町田の地域資料に関する事例は問い合わせもあり、増やしていく必要があります。 - レファレンスサービスの認知度を上げる取組が必要です。 「パスファインダー」については、最新の情報を提供するため定期的に改訂する必要があります。 - レファレンスサービスの充実には、職員の技術力向上が欠かせず、人材育成が必要です。
今後の取組の方向性	- 引き続き、町田の地域資料を中心とした幅広い分野について、レファレンス事例を公開していきます。 「レファレンス講座」等のイベントや「レファレンス通信」等の発行を通じて、サービスの認知度が上がるような工夫を行います。 「パスファインダー」の改訂を行います。 - レファレンス技術向上のため、都立図書館等の研修に積極的に参加します。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

・レファレンスはICT全盛の時代においても利用者と図書館をつなぐ重要な役割があります。パスファインダーは昨年度の課題を受け、地域資料の充実を図り2つの改訂を行ったのは評価できます。しかし、さらなる認知度アップの取組充実が必要なほか、このような目的意識をもった人を助けるツールの充実だけでなく、図書館初心者が見えなかった相談や初歩的な質問をしやすい環境の充実も必要です。

・レファレンスサービスは断片的な情報から欲しい情報にたどり着く等、担当職員の高度な技術が利用者と情報を結びつける図書館の大切な機能です。担当職員の養成、技術向上の研修への参加を高く評価し、更なるスキルアップを期待します。また、学校図書館とも連携して、図書指導員のレファレンス能力アップを支援する取組もあるとありがたいと考えます。

・公開件数が目標値を上回り、研修に参加しスキルアップを図ったこと、取組が継続していることは評価できます。が、前年度と同じような評価しかできません。なぜなら、それが増えた程度で、取組はほとんど同じです。課題も全く一緒です。地道な積み重ねが必要なことは理解できますが、「課題に対し、今後の取組の方向性が示され、次年度に向けてどのような改善がなされたのか」を前提に評価を行うからです。現状維持が目標ならば、課題、今後の取組にそう表記するべきです。

・前年度と同じ評価となりますが、昨今、ICTがどの家庭でも標準装備となり、レファレンスサービスの受付件数が減ることが余儀なくされている中、目標値を越えたことは評価できます。レファレンス通信にも興味深い事例が掲載されていて面白いです。しかし、年2回の発行や地域館各館や生涯学習センター等の庁内関係課、市内の高等学校への送付のみで、部数は1回あたり300部とはあまりにも少なく、効果的ではないと感じます。対策を検討してください。

【関連事項等提言】

・図書館の利用者で、レファレンスサービスの存在をまだ認識していない方も多いように思われます。インターネットの情報の信憑性が問われる時代において、図書館のレファレンスサービスは大きな役割を果たしていける可能性があると感じます。より多くの方が活用出来るように、サービスの告知について発信して欲しいです。

■取組4-3 地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】	図書館
-------------------------------	-----

事業概要	おはなし会などの本にかかわる活動がより活発に行われるよう、地域や学校で活動するボランティアを養成するとともに、ボランティアが行うおはなし会の開催を支援します。				
これまでの取組	各図書館でのおはなし会については、ボランティア入門講座を行っておはなし会の担い手を育成し、職員とボランティアが協力して、おはなし会を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①地域で活動するボランティア向け講座の開催回数		1回	3回	
	②地域で活動するボランティア向け講座への参加者数		26人	90人	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	ボランティア向け講座の実施、内容の検証・改善				
	新たな支援方法の検討		新たな支援の実施		
年度目標（指標①）	1回	1回	2回	2回	3回
年度目標（指標②）	30人	30人	60人	60人	90人

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」を3回、ボランティア養成講座を1回（全3回）開催しました。図書館ボランティアを対象とした研修を1回開催し、計5回開催しました。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」に29人、ボランティア養成講座に10人の受講生が全日程出席し受講終了しました。図書館ボランティアを対象とした研修に14人参加し、延べ73人の参加がありました。
課題	- 基礎編だけではなく実践編を行うなど、地域や学校で活動するボランティアのニーズをくみ取って、講座の計画を進める必要があります。 - 図書館ボランティアを養成するための講座は、これまでの「語り」、「乳幼児」といったカテゴリーに加えて、新たに「絵本」についての講座を検討する必要があります。 - 既存のボランティアの技術と意欲の向上に向けた定期的なフォローが必要になります。
今後の取組の方向性	- 活動のすそ野が広がるよう、ニーズに応じた講座内容や支援方法を検討します。 - 新たに絵本ボランティアの稼働に向けて養成講座をはじめとした事業を組み立てます。 - 既存のボランティアの方がこれまで以上に活躍できるように、おはなし会等の取り組みを進めます。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・開催回数は目標値以上の達成ができていますが、参加者の数がやや伸びないことで、達成状況が前年度より低くなっています。しかし、アンケートも丁寧にまとめられ担当間での課題の確認もしっかりとなされており、参加者には高評価なこともあり、自己評価以上の努力を感じます。今後も集まりやすい時期や曜日がいつなのか、周知の方法が適切であったかなどを検証し、ボランティア養成や支援につながる活動の充実を期待します。 ・活動のすそ野を広げるとともに、各種団体の情報交換等のネットワークの構築とブラッシュアップには良い企画です。コロナ禍のような規制がないため、今後の更なる事業の展開を期待します。 【関連事項等提言】 ・取組4-7にも関連すると思いますが、何と云ってもボランティア人材の確保のための継続的な施策が重要だと思います。図書館で行っているボランティア活動を知らない人も多いと思います。SNSでの発信も含め、様々な告知を行いアピールする必要があると思います。おはなし会の語り手のスキルアップのために、普段の活動場所以外でのおはなし会の開催の機会を図書館でバックアップするのはどうでしょうか。
----------------	---

■取組4-7 図書館運営の地域協働化の促進	図書館
-----------------------	-----

事業概要	市民の学習を支える図書館活動を市民参画・協働でこれまで以上に進めることができるよう、図書館で活躍するボランティアの活動分野を拡げていきます。				
これまでの取組	児童サービスの「おはなし会ボランティア」、障がい者サービスの「宅配ボランティア」・「音訳ボランティア」・「点訳ボランティア」・「対面朗読ボランティア」で市民ボランティアが活動しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	ボランティア活動分野の拡大		5分野	7分野	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	5分野	6分野		7分野	
	拡大に向けた検討				
年度目標	5分野	6分野	6分野	7分野	7分野

<2023年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	- 以下の6分野でボランティアの活動がありました。 ①おはなし会ボランティア（小学生・幼児向け：221回、乳幼児向け105回、英語おはなし会：12回開催） ②宅配ボランティア（宅配件数：341件） ③音訳ボランティア（音訳資料製作タイトル数：34点） ④点訳ボランティア（点訳資料製作タイトル数：14点） ⑤対面朗読ボランティア（対面朗読件数：350件） ⑥イベント企画ボランティア（イベント回数：1回） ・イベント企画ボランティアとして、YA世代の図書館利用促進を目的に、MSP（町田創造プロジェクト）と図書館のコラボイベント「飛んで火にいる夏のボドゲ in 中央図書館」を8月8日（火）に行い、13名の参加がありました。また、引続き若者参画を進めるため、若者の図書館ボランティアとして「図書館プランナー」の募集をし、14名が登録しました。イベントの実現に向け検討を行いました。
課題	「図書館プランナー」を中心に、イベントの検討を進めていく必要があります。
今後の取組の方向性	今後もイベントの企画・運営等の分野を「図書館プランナー」を中心に開拓し、読書や図書館に興味を持つきっかけになるように検討を進めていきます。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

- ・「絵本の読み聞かせ講座」「おはなしボランティア養成講座」、また学びなおしである「乳幼児ボランティア向け講座」などを盛んに行っていることは高く評価できます。
- ・障がい者サービスの「音訳実務者向け中級講座」も実施報告からは充実が感じられ、町田市立図書館ならではのレベルの高さが示されています。
- ・概ね目標を達成した根拠として、件数やタイトル数が書かれていますが、実際に参加した人数や関わった人数等の具体的な数値が出ていないのが残念です。具体的に、何人ぐらいがどこで活躍したり活動したりしているのかを一覧にしたり、地域に公開するなどの取組が必要と思われます。地域協働化の促進へつなげる取組ですから、状況に合わせて検討をし、これからも地道に継続してほしいと思います。

【関連事項等提言】

- ・「図書館プランナー」を中心としたイベント企画をほかにも行っても良いのではないのでしょうか。この制度は面白い企画だと思いますが、これは無償の手弁当作業なのではないでしょうか。せめて交通費程度あるいは東京都の最低賃金程度の謝金があっても良いのではないかと思います。
- ・障がい者サービスの、ほかのボランティア養成あるいは強化講座はどのような長期計画で進められているのか、明示したほうが状況が分かりやすいのではないのでしょうか。また、宅配ボランティアについても件数しか書かれていませんが、もっと実態がわかる報告がほしいと思います。障がい者サービスは児童サービスと並んで図書館の根幹を支える重要な業務です。これからの事業の展開のためにも、状況の分かる資料を作成すべきと考えます。

■取組5-2 本と出会う場所の創出【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	町田市内には大学図書館や地域文庫、まちライブラリー*など本に触れることができる施設が各地域にあります。これらの施設と図書館が連携して読書活動を推進する取組を進めるとともに、これらの施設の情報を集約した読書マップを作成します。				
これまでの取組	市民が利用可能な大学図書館やおはなし会を実施している団体の情報を収集し、図書館ホームページに掲載しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①読書活動推進にかかる連携施設数	20か所	25か所		
	②読書マップの作成	未実施	作成・公開（2020年度）		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	図書の貸出・閲覧やおはなし会がある市民利用施設との連携推進				
	本に触れることができる施設の把握	マップの作成・公開		マップの更新	
年度目標（指標①）	21か所	22か所	23か所	24か所	25か所
年度目標（指標②）	施設の把握	作成・公開	検証	更新	検証

*まちライブラリー：『生涯学習推進計画2019-2023』47ページのコラム「まちライブラリーとは？」を参照。

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	・読書活動推進にかかる連携について、関係団体と協力してイベントを実施したほか、移動図書館のイベント会場や保育園・幼稚園などへの出張運行により本と出会う機会を創出することができたため、達成状況をCとしました。 ・、「読書活動推進にかかる連携施設数」は増減がありませんでした。 ・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力し、市民が本と気軽に触れ合えるイベントを開催しました。2023年9月30日、10月1日に開催された「2023鶴川団地秋まつり」において、図書コミュニティ施設運営団体設立準備会（2025年度に鶴川図書館が民設民営の施設へ転換予定）とともにイベントを実施しました。 ・イベント会場や保育園・幼稚園など子どもの集まる場所7ヶ所へ、移動図書館を計56回出張運行し、資料の貸出・閲覧やおはなし会を行いました。日頃図書館を利用していない方も含め、本と出会う場所を創出しました。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	・読書マップについて、さらに内容の充実を図るため、今後のあり方について検討しました。
課題	・「読書活動推進にかかる連携施設数」については、現在の連携施設との関係性を深めることに加えて、連携施設をさらに拡充していく必要があります。
今後の取組の方向性	・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力したイベントを、今後も継続します。 ・地域では様々な読書普及活動をしている団体や施設があるため、市立図書館と連携して読書普及活動を進められるよう取り組みます。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

- ・図書館の役割として、市民に対する本と出会う場所の創出を積極的に進める事は大変重要なことです。目標を達成したというだけではなく、今後それをどのように推進するかという方向性がより明確にされると良いと思います。
- ・移動図書館の出張は、貸出者数は少ないものの、来館者は全体で約1,600人となっており、移動図書館の意義を感じてもらうため、地道ながらもあるべき図書館の姿だと思います。これからも継続してほしいです。
- ・「関係団体と協力してイベントを実施」とありますが、鶴川の設立準備会との1件しか報告がない上、これを「利用施設との連携」とするのはいかなものでしょうか。

【関連事項等提言】

- ・読書マップに関して、読書に資する情報を市民に提供していくことが大切ですので、公共施設以外にも、町田市内の企業や法人と連携を図り、企業の取り扱っている領域や内容に関わる読書や資料提供を行い、それらを読書マップに取り入れるといったように、今以上に分かりやすく使いやすくしていく必要があると思います。同時にこれを見てもらうための工夫も必要だと考えます。
- ・読書マップ以外にも、SNS等を上手く使い、より本と出会う場所を充実させていってほしいです。

■取組5-5 図書館利用者の利便性の向上	図書館
----------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及、書籍のデジタル化により市民の読書スタイルは多様化しています。図書館に来館しなくても市民が読書をする機会が増えるよう、電子書籍の導入を目指します。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	電子書籍サービスの導入		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	先進事例の研究調査・ 補助金の調査・ 民間活力手法導入検討		導入のための仕様作成と 実施に向けた準備		実施
年度目標	調査	検討	仕様作成	実施準備	実施

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	・2023年度も電子書籍サービスを継続して提供しました。2023年度末の蔵書数は18,763点、2023年度の貸出点数は104,297点でした。 ・教育広報紙「まちだの教育」への特集記事の掲載や、市民センターまつりでブース出店、飲食店などで名刺サイズ広告の配布、図書館で電子書籍サービスの使い方講座の実施など、電子書籍サービスの各種PRを実施しました。 ・毎月新刊資料案内および特集を組んで電子書籍コンテンツの紹介を行い、継続して利用いただけるよう工夫しました。 ・2023年9月から市内の公立小・中学校の児童・生徒全員に対し、電子書籍サービスIDを付与しました。
課題	・図書館サービスのひとつとして電子書籍サービスの認知度を上げる必要があります。 ・電子書籍コンテンツが紙の図書と比較して高額かつ点数が少ないため、継続して利用したいと思っていただくよう工夫する必要があります。
今後の取組の方向性	・引き続き様々な場面でPRを行うことで、電子書籍サービスを市民に広く周知します。 ・常に魅力的な蔵書構成にするような選書を行い、新刊案内や特集を定期的に公開することで、電子書籍サービスの利用を促進します。

<外部評価>

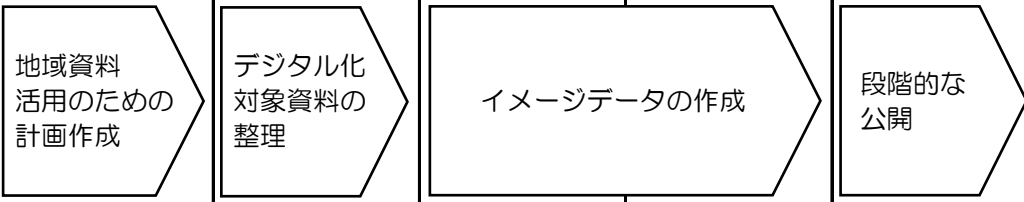
外部評価者の コメント

【評価】

- ・東京都デジタルデバйд解消事業2年間の補助金を活用した蔵書数の拡大により、貸出点数増加への効果があったことを評価します。
- ・市内の多様な場でのPR活動の工夫と実施は、市民のどの年齢層へも電子書籍を周知する機会として有用であったことを評価します。
- ・取組2-4の事業と関連して、2023年9月から市内公立小・中学校のすべての児童・生徒へ電子書籍サービスIDを付与したことは、子どもたちの図書館利用への関口が広がり、読書活動推進へと繋がる可能性があることを高く評価します。

【関連事項提言等】

- ・デジタル技術の急速な発展・普及は市民生活とは切り離せないものとなった現在、電子書籍は様々な理由から図書館を訪れることが困難な市民にとっても、「本と出会い」「本を楽しむ」機会を得られる貴重なコンテンツであると考えます。電子書籍の利便性を広く周知し活用を促すことは、「市民の声」を収集できることにも繋がると考え、今後も範囲を広げた積極的なPR活動の継続を期待します。
- ・紙の書籍よりコスト高の電子書籍コンテンツの購入については、補助金終了後の購入計画を市の図書費の増額検討・要望と合わせ具体化を進めていく必要があると考えます。
- ・町田市の子どもの不読率の結果も考慮しながら、電子書籍サービスID付与のみではなく、電子書籍の活用方法や楽しみ方の出張講座等のさらなる発展的な取組の実施を期待します。

事業概要	現在、紙の媒体で管理されている地域資料は、地域活動を行っていく上で重要な資料です。これらを積極的に活用できるよう、これまで蓄積してきた地域資料のデジタルアーカイブ*化を進めます。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	地域資料のデジタルアーカイブ化の推進		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
年度目標	検討	整理	データ作成	データ作成	実施

* デジタルアーカイブ：電子図書館をはじめ、作品、文化財その他の情報をデジタル化して収集・保存・公開する活動や場の総称。

＜2023年度の事業実績＞

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	・電子書籍サービスサイトで公開させるための手法を調査しました。 ・電子書籍サービスサイトにおいて、地域資料を1点公開しました。 ・本格的な導入に向け国の補助金「デジタル田園都市国家構想交付金」に応募し、内示を受けました。
課題	・2024年度中の公開に向け、各種準備を進める必要があります。
今後の取組の方向性	・2024年度中に電子書籍サービスサイトで公開できるよう各種準備を進めてまいります。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

- ・電子書籍サービスのためのシステムで提供されることにより、電子書籍と合わせて検索ができることは、評価できます。一方、地域資料のデジタル化は、町田市に関する情報を市外へ発信することにもつながるものであるため、市外からも容易に閲覧できることが期待されます。
- ・段階的な導入とはいえ、コンテンツがきわめて少ないことは、改善していくべき点です。本格的な導入によって、コンテンツの充実が期待されます。
- ・本格的な導入のための補助金を確保したことは、事業の実現、充実において重要であり、高く評価できます。

【関連事項提言等】

- ・次のような工夫がなされることで、情報にアクセスしやすく、また、情報が活用されやすい仕組みが作られることを期待します。
 - ・他部局が公開するデジタル化資料も検索できるようにする。
 - ・学校での探究学習や各施設における講座等における活用を促す。
 - ・OPACから電子書籍システムに収載した地域資料へアクセスできるようにする。
 - ・市外からの閲覧にも対応する。
- ・システムの維持とコンテンツの拡充のため、継続的な予算の確保を期待します。

■取組5-7 市民のニーズに合った図書館事業の実施	図書館
---------------------------	-----

事業概要	図書館全館で利用者アンケート調査を実施し、図書館利用者のニーズを把握して、図書館サービスの改善に役立てます。				
これまでの取組	図書館全館での利用者アンケートを2009年度から3回実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	図書館利用者アンケートの実施		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	アンケート実施準備	アンケート実施と公表	事業の評価と改善		次期アンケート実施準備
年度目標	検討	実施	活用	活用	検討

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	- 指定管理者制度の効果を検証するために、図書館全館で利用者アンケートを実施しました。 - これまでのアンケート調査で市民ニーズが高かった次のサービスを実施しました。 9月から市内小・中学校の児童・生徒に電子書籍サービスの利用IDを一斉付与しました。学校で使いやすい同時使用が可能なコンテンツなどを揃え、新たな読書機会の提供を行いました。 5月から久美堂本町田店での予約資料受渡しサービスを開始しました。
課題	- 引き続き、指定管理者による運営状況の評価が必要です。 - 利用者アンケート結果から市民ニーズを検証し、図書館利用に結び付ける必要があります。 - 図書館利用者だけでなく、図書館を利用していない市民のニーズも把握する必要があります。
今後の取組の方向性	- 指定管理者による運営の効果検証に基づき、今後の運営体制を検討します。 - 検証結果に基づき、図書館利用の拡大につながる事業展開を検討します。 - 紙ベースのアンケートだけでなく、QRコードからアクセスできるアンケートなど適切な方法を検討します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	【評価】 ・利用者に対し、調査が順調に実施され、とりまとめられたこと、また、工程表よりも多くの調査が実施されたこと、そして、結果がウェブ上で報告されていることを高く評価します。これらの結果を活かし、他の取組項目の改善または充実がなされることを期待します。 ・調査の実施結果が、さらなるサービスの充実に結び付いている点も、高く評価します。 【関連事項提言等】 ・公開されている調査結果は、集計が中心となっていますが、データの有効活用、課題の発見と改善、調査協力者への説明責任の観点から、さらなる調査結果の分析と公表も検討してよいと考えます。また、どのような課題やニーズが読み取れるのか、まとめを示すことも有効であるといえます。 ・「課題」にあるとおり、図書館を利用していない人々（潜在利用者）への調査は、積極的に検討すべきであるといえます。
----------------	---

若者の図書館利用促進について

(第 20 期町田市図書館協議会 審議のまとめ)

1. 審議の経緯

第 20 期の図書館協議会では、図書館より以下の問題提起を受けて、若者の図書館利用促進策について審議を行った。

問題提起：子ども・若者の利用は近年の図書館では大きな課題となっています。そもその子どもの人口減少や、若者の不読率の上昇など、若者の読書状況は大きく変化しています。今後長く図書館を利用する世代の人に、図書館に来てもらう、図書館を知ってもらう、ということが大切になります。(第 20 期 第 1 回町田市立図書館協議会資料)

2. 図書館の取組

検討に際して、図書館より、若者の資料貸出数は減少傾向にあり登録者数自体も中学生世代から減少すること、「わいわいキャレル」等の現状の取組の説明を受けた。他に、以下のような取組と課題の説明があった。

(1) 自習について

- ・自習とは、図書館資料を利用せずに自分が持ち込んだ問題集等で勉強すること
- ・現状、館内の座席での自習は原則として禁止している。例外として読書室がある図書館では自習が可能としている
- ・課題として、学習できる場所を求めている若者は一定数存在すること、閲覧か自習かの判断が難しいこと、座席の増設要望があっても空スペースがなく増設は困難であること、座席の設置状況は各館の規模や空きスペースによって異なること、等が挙げられた

→ 現状のルールおよび運用のあり方について検討が必要

(2) イベントについて

- ・以下のような、イベントや取組を実施している。町田創造プロジェクトとのコラ

ボ、ボードゲーム、まちクエ（資料を探しながら謎解き・回遊）、POP コンテスト、1 日図書館員、等

→ 参加者が少ないものもあり活性化が必要

（3）居場所の提供について

・「わいわいキャレル」のようなグループ学習のためのスペースの提供

→ 若者の居場所についてどう考えるべきか

3. 具体的取組

第 20 期図書館協議会では、上記の取組を踏まえて協議を行った。協議では、以下のさまざまな意見や提案が出された。ここでは、提起されたものを列挙した。内容的に矛盾しているものもあるが、併記している。

（1）基本的取組

○ ニーズ把握

・若者が実際に図書館に何を期待しているか、ニーズは意外に聞いてみないと分からない

・来館／非来館などさまざまな機会を通じて若者にアンケートやグループインタビューをしてニーズを尋ねてみる（ex. 都立図書館）

・その他、わいわいキャレル等のスペースに QR コードを掲示しニーズを尋ねてみる

○ 大人の読書

・若者にだけ読書をするように言っても限界がある

・大人を含めた市民全体が本を読むようになることが大切

・他市の読書活動推進計画の中には、大人も対象者に入れているものがある（ex. 多摩市）

（2）情報発信

○ 適切な情報発信

・SNS（TikTok、Instagram、X 等）のさらなる活用

・広報媒体に適した形で情報発信を行う

・形式的な情報発信だけではなく図書館職員の生の声が聞こえるものが期待される

(ex. 海外の図書館 HP)

(3) 読書

○ SNS 等を通じた読書に関わる情報発信

- ・若者に人気のある文学系 YouTuber や TikToker などによる紹介資料を展示
- ・TikToker などによるイベント開催など（第四次町田市子ども読書活動推進計画「文学館イベント・講座」で関連事業を実施）

○ 読書の定義の拡張

- ・「読書」を紙の図書を読むこと以外に、デジタルメディアも含めた広い意味として捉え直すことも考えられる
- ・学校教育で行われている探究学習や情報活用能力育成なども視野に入れることが考えられる

○ デジタルデトックス

- ・SNS, スマホ, パソコンなどに疲労感を覚える若者もいる。紙の図書の良さを積極的にアピールすることで、そうした若者に訴求するかもしれない

(4) 若者の居場所

○ 他機関との役割分担

- ・若者の居場所をつくることは重要だが全てを図書館が担うことはできない
- ・施設自体をすぐに改修できるわけではない
- ・したがって他施設とうまく提携していく必要がある (cf. 公民館・学校)
- ・複合施設などで居場所機能がある場合、図書館の開館に合わせて開放する
- ・使用されていない会議室などの開放も考えられる (cf. アクションプラン)

○ 大学図書館などとの連携

- ・他施設の中でも自習などの面では大学図書館の開放は期待される (ex. 和光大学の図書館は市民に開放)
- ・大学側でも市民開放が求められるようになっている
- ・市民への開放に向けては町田市からの積極的な働きかけが必要

○ 滞在可能な時間

- ・図書館は親が安心して行かせることのできる場所

- ・夕方以降，ある程度の時間まで滞在できるようにしてはどうか（20 時まで等）

○ 図書館部（サークル）

- ・若者による通年のサークルを作ること，若者の図書館利用のあり方を変えるきっかけにできるのではないか
- ・図書館を中心とした文化的なサークルみたいなもの
- ・部活動の地域移行等の問題も出てきている

（５）座席の利用方法

以下は，座席利用に関わるさまざまなアイデアである。

○ 若者向けのスペースの設置

- ・「わいわいキャレル」等，音を出せるスペース・時間を現状より拡大

○ 使用方法・時間の告知

- ・時間的なゾーニングを行う場合は事前に十分な告知が必要
- ・具体的にはウェブページなどで利用可能時間を告知
- ・自治体によっては座席の空席情報を随時 X で発信（ex. 浦安市）

<<以下は自習による座席利用に対する様々な意見>>

○ 優先順位の明確化

- ・自習と図書館資料利用の優先順位を明確化
- ・自習している人は図書館資料利用者に席を譲るといったルールを設ける

○ 利用条件としての図書借用

- ・席利用の前提として図書を借用する，図書を読む，ことを前提としてはどうか

○ 座席使用方法の類型化

- ・座席を図書館資料専用席，図書館資料優先席，自習も可などに分類することも考えられる
- ・それを試験的に運用して利用状況やニーズ等を調査

○ データ取得と試験的实施

- ・実際にどういう座席の使い方をしているのかを年齢層，行動という観点からデータ

を取得

- ・それを踏まえて方針を立て試験的に実施する

（６）施設・設備

○ ゾーニングという考え方

- ・若者がグループで気兼ねなく利用できる空間的なゾーニングが必要
- ・音が遮断されるスペースがあるとよい（グループ学習室等）
- ・空間的ゾーニング以外に時間的ゾーニングも考えられる

○ デジタル環境

- ・デジタルネイティブな若者向けに ICT 環境整備（電源・Wi-Fi 環境）が必要
- ・ICT 機器（キータッチ）の音などが気にならない環境も必要

○ リラックスできるスペース

- ・若者が来館したくなる場所作り，若者を歓迎する雰囲気作りが必要
- ・くつろぐことのできるスペースを作る
- ・ラウンジ的なスペースをつくと自然と若者が集まってくる可能性

○ 創造の場

- ・メーカースペースなどの整備（ex. 浦安市）
- ・映像編集，SNS コンテンツ制作のための講座を開催
- ・作家になろう，といった創作教室等の開催

（７）不登校生徒への支援

○ 不登校児童生徒の居場所

- ・子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（令和５年３月）は図書館の教育・学習資源の有効活用の観点から「長期休業期間中の児童生徒（中略）の自宅学習などを効果的に行えるようにする取組等を，国も積極的に促す」としている
- ・社会教育の一機関である図書館においても学校や教育委員会所管部署と連携した取組を実施する可能性
- ・平日の日中に来館する児童生徒への対応マニュアルの整備が必要
- ・より進んだ取組として図書館に来館することを登校と認める等の取扱い
- ・取組を行う場合，生徒を喜んで迎えることを示すために「ここにおいでよ」といった呼びかけを行う（キャンペーンを実施等も）

○ 受入れ体制の整備

- ・教科書をはじめとした学習教材をそろえる（例えば百科事典などのデジタルコンテンツ等）
- ・アメリカではホームスクール制度があり家庭教育支援のためのプログラム実施，資料設置をしている

○ 切れ目ない読書環境整備

- ・物理的な図書館にアクセスできない場合でも電子書籍など，読書環境を整備
- ・フリースクールなどに対して団体貸出をしたり宅配などで図書を届けることも考えられる

（８）若者向け資料

○ 学習参考書コーナー

- ・収集方針では学習参考書，受験参考書及び資格試験問題集等は収集対象外の資料として設定されている。理由は個人が長期間，記入等をして使用するためと考えられる
- ・将来的には，収集しコーナーを設けることも考えられる（ex. 熊本県山鹿市）

○ コミック

- ・「町田市立図書館資料収集方針」によれば，コミックについてそれぞれの利用者に相応しいものの収集や，各時代の代表的なもの，評価の定まったもの，資料的な価値があるものを中心に収集することが定められている。
- ・現在 10,000 点ほど収集

○ キャリア教育関連資料の充実

- ・中等教育においてキャリア教育が展開されるようになっている
- ・若者が将来を考える上で有益な働き方，職業選択，進路選択，留学，各種資格などの資料を整備
- ・図書館によってはキャリアデザインコーナーを設置（ex. 都立図書館）

（９） イベント・講座

○ 若者向け映画会

- ・若者の図書館への期待として映画会は上位に挙げられてきた（cf. 町田市立図書館あり方見直し方針アンケート）

- ・これまでも青少年 Y シネマとして取り組まれてきた（但し利用者は少ない）
- ・若者のニーズを踏まえたタイトル選びが重要

○ 翻作・ビブリオバトル・アニメーション

- ・読書を通じたコミュニケーションという観点から、翻作、ビブリオバトル、読書へのアニメーションなどの取組が考えられる
- ・翻作とは、何らかの原作をもとにして表現を行う取組（千葉大名誉教授の首藤久義氏が提唱）。自然と若者が熱心に読書をするように。
- ・ビブリオバトルはこれまで市内の中学校などで取り組まれてきた（全国大会もあり）

○ 推し活

- ・若者の中では、自分の応援するアイドルやキャラクターなどを応援することを「推し活」と呼ぶ文化が発展してきた
- ・こうした「推し活」は図書、音楽、映画など図書館のコンテンツにも広げられる可能性がある
- ・図書館側で、コメントシート、イラスト、ポップなどを用意し、若者による推し活を支援することが考えられる
- ・以前より、ひとこと POP コンテストを実施してきたが、それをさらに発展させる

○ ゲームを用いた取組

- ・これまでも図書館では謎解きゲームである「まちクエ〜図書館から脱出〜」に取り組んできた。2022 年度にはボードゲームも実施してきた
- ・北欧などでは、図書館内でゲーム大会を開催したりビデオゲームの貸出を行っている。貧富の格差なしにゲームを楽しめるようにすることなどが目的
- ・若者を図書館に呼び寄せるという観点からも実施されている
- ・2024 年の図書館総合展(2024)では「図書館にビデオゲームを置くとどうなる？」が開催され関心が高まっている

○ 多文化サービスの観点からの学習支援

- ・海外などでは宿題支援や日本語学習を支援（ex. 東大和市立図書館）
- ・多文化共生社会実現の観点からも重要
- ・図書館は比較的敷居が低く資料もそろっている
- ・日本語学習については国際交流協会などと連携

若者の図書館利用促進について ～図書館の取組報告～

◆図書館での机のついた座席の利用と自習についてのアンケート

期間：2024年12月7日（土）から12月15日（日）の間で実施

実施館：中央図書館・さるびあ図書館・金森図書館・忠生図書館

※中央図書館で土日祝日に行っている、中高生のグループ学習室「わいわいキャレル」利用者にもグループ学習室についてアンケートを実施中。

◆中央図書館小集会室開放

利用率が高い土日祝日において、第二読書室として小集会室を開放する。

◆図書館プランナーによる企画・イベント

- ・図書みくじ【1月15日（水）】
- ・LLブック読み聞かせ【2月9日（日）】
- ・アクリル毛糸でたわしを作ろう【2月15日（土）】

◆推し本を伝えよう！ひとことPOPコンテスト2024

応募期間：2024年11月15日（金）～2025年1月19日（日）

各賞：最優秀賞1名・優秀賞2名・図書館協議会賞1名・図書館長特別賞1名・

協力書店：(株)紀伊國屋書店 小田急町田店、TSUTAYA 町田木曽店、(株)久美堂 本店・
本町田店、(株)ブックファースト ルミネ町田店

回答日: 2024年 12月 日 ()

図書館での机のついた座席の利用と自習についてのアンケート

図書館での机のついた座席の利用と自習スペースについてお伺いします。回答は、あてはまる番号や欄に○をつけていただく形式としています。

- 問 1. あなたの年代について教えてください。(○は1つ、10代の方は該当代に○を付けてください)
- (1) 10代(小学生世代・中学生世代・高校生世代・大学・専門学校生世代・その他)
 (2) 20代 (3) 30代 (4) 40代 (5) 50代
 (6) 60代 (7) 70代以上

- 問 2. あなたは図書館で座席を利用しますか。(○は1つ)
- (1) ほぼ毎日利用する (2) 週に1～3回程度 (3) 月に1～3回程度
 (4) 年に数回 (5) 利用しない

- 問 3. 図書館の座席は図書館の資料を閲覧^{※1}するために設置していますので自習^{※2}はできません。例外として読書室(中央・さるびあ図書館)・多目的室^{※3}(忠生図書館)では、自習もすることができます。あなたはこのことを知っていましたか。(○は1つ)

※1 閲覧とは、図書館資料を使った読書、調査等をいいます。

※2 ここでの自習は、図書館資料を利用せず、持ち込みで勉強することをいいます。

※3 土・日・祝日及び夏休み限定。

- (1) 知っている (2) 知らなかった

- 問 4-1 今後の座席利用のルール(上記問3の内容)について考えをお答えください。(○は1つ)

- (1) 今まで通りで良い (2) ルールを変えるべき



問5へ



問4-2へ

- 問 4-2 上記4-1の質問で(2)に○を付けた方にお伺いします。

あなたの考えに近いものをお答えください。(○は1つ)

- (1) どの座席でも自習ができるようにすべき
 (2) 時間によって閲覧優先・自習優先と分けるべき
 (3) 座席によって閲覧優先・自習優先と分けるべき
 (4) 座席の利用は時間制にするべき
 (5) その他 []

- 問 5. 図書館での自習スペースについてお伺いします。(○は1つ)

- (1) 要らない (2) 十分・足りている (3) もっと欲しい

- 問 6. 図書館の座席利用についてご意見のある方はご記入ください。

[

]

ご協力ありがとうございました。

回答日： 年 月 日()

図書館での机のついた座席の利用と自習についてのアンケート

図書館での机のついた座席の利用と自習スペースについてお伺いします。回答は、あてはまる番号や欄に○をつけていただく形式としています。

問 1. 図書館の座席は図書館の資料を閲覧^{※1}するために設置していますので自習^{※2}はできません。例外として読書室(中央・さるびあ図書館)・多目的室^{※3}(忠生図書館)では、自習もすることができます。あなたはこのことを知っていましたか。(○は1つ)

※1 閲覧とは、図書館資料を使った読書、調査等をいいます。

※2 ここでの自習は、図書館資料を利用せず、持ち込みで勉強することをいいます。

※3 土・日・祝日及び夏休み限定。

(1) 知っている (2) 知らなかった

問 2. 図書館での自習スペースについてお答えください。(○は1つ)

(1) 要らない (2) 十分・足りている (3) もっと欲しい

問 3. わいわいキャレルのような、グループで話しながら勉強できる場所についてお答えください。(○は1つ)

(1) こういう場所がもっと欲しい
(2) わいわいキャレルを平日(17時～20時)も利用できるようにして欲しい
(3) 今の状況で満足
(4) その他 []

問 4. わいわいキャレルの利用目的についてお答えください。(○はいくつでも)

(1) 試験勉強や日々の勉強を行うため
(2) グループでの課題に取り組むため
(3) 図書館で調べ物をするため
(4) その他 []

問 5. 図書館の座席利用やわいわいキャレルについてご意見のある方はご記入ください。

[]

ご協力ありがとうございました。

図書館からの報告事項

1. 町田市議会の動向

(1) 第4回定例会（11/28～）

①一般質問（12/9）

・殿村議員「公立図書館の役割とさるびあ図書館の存続について問う」

(1) 公立図書館と地域図書館の意義と役割を問う。

(2) ハガキによる予約連絡終了について、理由と対応を問う。

(3) 「さるびあ図書館の集約」について、検討内容と市民への対応、今後の方針を問う。

(4) 「請願」採択と市民の要望に応え、さるびあ図書館を存続すべきだが、どうか。

・戸塚議員「今後の市立図書館と学校図書館の連携について」

(2) 「新たな学校づくり推進計画」と「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」の連動性についての考え方はどうか。

2. 町田市教育委員会の動向

(1) 第8回定例会（11/2）

・報 告『推し本を伝えよう！ひとこと POP コンテスト 2024』の開催について』

3. 各種計画（町田市5ヵ年計画22-26、公共施設再編計画、教育プラン24-28など）に基づく取組

(1) 鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について

(2) 鶴川駅前図書館指定管理者の管理運営状況評価について

①町田市教育委員会指定管理者管理運営状況評価委員会部会の開催について

・日 時：11月8日（金）14：00～16：30

・場 所：町田市立中央図書館6階中集会室

・内 容：指定管理者管理運営状況評価結果（2023年度）の検証について【資料5】

・委 員：松本 直樹 氏（慶応義塾大学文学部准教授）臨時委員

仲村 拓真 氏（山口県立大学国際文化学部文化創造学科講師）臨時委員

②2024年度利用者アンケート調査の実施について

・調査期間： 11月26日（火）～11月30日（土）

公の施設の指定管理者管理運営状況評価結果

1. 基本情報

(1)管理施設

施設名	町田市立鶴川駅前図書館		
施設概要	【所在地】町田市能ヶ谷一丁目2番1号 【開設年月】 2012年10月		
	【開館日時】月曜日～日曜日(第1・第3月曜日を除く、ただし第1・第3月曜日が祝日の場合は開館、年末年始)／午前9時30分～午後8時(月曜日～金曜日)、午前9時30分～午後6時(土曜日、日曜日、祝日)		
施設概要	【施設面積】 1,332.07㎡ 【建物構造】 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造り 地上4階地下2階の2階部分		
	【施設内容】館内フロア各コーナー(一般書、文学、暮らし、児童、ヤングアダルト、地域資料、雑誌、新聞、洋書)、予約受取コーナー、おはなしのへや、サービスカウンター、書庫、対面朗読室、トイレ(男子・女子・みんな)、ブックポスト等		
施設概要	【蔵書数】一般書:89,438冊 児童書:25,901冊 合計 115,339冊(2023年度)		
	図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、市民の利用に供することにより、市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資するため。		
設置目的	図書館法、町田市立図書館条例		
設置根拠法令・条例	図書館法、町田市立図書館条例		
所管部課	教育委員会生涯学習部図書館	問合せ先	042-728-8220
施設ホームページURL	https://www.library.city.machida.tokyo.jp/		

(2)指定管理者

指定管理者名	株式会社久美堂、株式会社ヴィアックス ＜久美堂・ヴィアックス共同事業体＞	法人番号	なし
指定管理者所在地	(代表企業 株式会社久美堂)町田市原町田6-11-10		
指定期間	2022年4月1日～2027年3月31日		
指定管理業務の内容	(1)図書館資料の収集、整理及び保存等 (2)個人貸出し、団体貸出し、及び閲覧等 (3)管理施設及び設備の維持管理に関する業務…施設の保守・管理、修繕等 (4)前各号に規定したもののほか、教育委員会が指定した業務…教育委員会への報告業務、利用者アンケートの実施等		
利用料金制	☐ 該当 ☐ 併用 ☒ 非該当	選考方法	☒ 公募 ☐ 非公募

2. 選定時の提案内容

提案内容(目標値など)	達成時期	達成状況
利用者満足度(全体満足度) 82%以上	毎年度	満足・やや満足を合計して95.4%を達成した。
立地特性を活かしたコラボレーション特集等事業の実施 年間24回以上	毎年度	他団体とのコラボレーション特集等事業を年間52回実施した。
利用促進のための広報、周辺施設と連携したPR活動年間4回以上	毎年度	「鶴川駅前図書館だより」の発行や「鶴川地区協議会だより」への記事掲載など、鶴川地区協議会や和光大学などの団体と連携したPR活動を年間18回実施した。

3. 昨年度の課題

内容	市民に喜ばれ、かつ有益な事業が企画・実施され、現状の達成状況を維持するとともに、貸出点数の目標達成に向けて取り組むこと。 【2023年度評価委員会指摘事項】 自主事業と指定管理事業の収支会計を明確に区分し、経費を混同することがないよう、指摘があった。
----	---

4. 総合評価及び所見

総合評価	A	【総合評価基準】 A:良好である B:要求水準達成 C:良好ではない D:大きな課題がある S:Aのうち実施内容が特に優れている
所管課総合所見(特筆すべき点(Sの場合必須)、提案内容の実現状況、昨年度の課題への対応等)	【選定時の提案内容の実現】 ・各項目で目標値を大きく上回り達成している。特にコラボレーション特集等事業については、地域の団体と連携した事業を積極的に実施しており、高く評価できる。 【昨年度の課題への対応】 ・昨年度に続き、子どもや親子連れが楽しめるイベントを実施した。特に子ども向けのイベントは、季節ごとにテーマを設けた。また、夏休み期間には、「夏休み子どもフェア」の一環として、図書館内を巡るイベントとテーマに沿った本を探して借りてもらうことを目的としたイベントの2種類を実施した。 ・地域の団体とコラボレーションした特集や展示などに力を入れた。年間での貸出点数の目標には至らなかったが、来館者数は増加した。 【2023年度評価委員会指摘事項への対応】 ・自主事業と指定管理事業の収支会計は、2024年3月に実施した会計・経理モニタリングにおいて、経費の混同がないことを確認した。 【特に評価すべき取り組み】 ・昨年度に続き、地域の団体との連携に力を入れており、新たに団体と連携した事業を展開した。また、2023年度の地域連携の目玉事業として、2023年10月と2024年3月に実施した「コラボ・フェス」には、320名を超える方が参加した。 ・指定管理者からの提案で2023年5月から、図書資料の予約受渡しサービスを久美堂本町田店で開始した。書店での図書資料の予約受渡しサービスは全国初の試みであり、年間で6,500点を越える資料を貸出した。また、この取組は文部科学省の「図書館・書店等連携実践事例集」に取り上げられた。 【来年度に向けた課題】 ・市民に親しまれ喜ばれる図書館であるために、地域の団体との連携など、現在の達成状況を維持しながら、利用者の利便性向上、サービスの質向上、貸出点数向上に向けて取り組むこと。	

【評価対象年度 2023年度】

指定管理者所見(補足説明・アピール・未達成項目の改善策等)	◎職員の安定と来館者の増加 指定管理運営2年目となり、職員は各種の手続きを正確かつ迅速に処理できている。接遇は親切丁寧に行っており、利用者からお褒めの言葉をいただくこともある。館内には暖かく優しい雰囲気があり、来館者数は2022年度よりも増加した。 ◎バリアフリー施策の推進 2022年度に引き続き、「認知症サポーター養成講座」を受講し、職員全員が認知症サポーターとなった。今後も年1回、ブラッシュアップのため講座を受講する。 ◎創意工夫した子ども向けイベントの実施 出版社やFC町田ゼルビアと連携したイベント、鶴川駅前図書館オリジナルキャラクター誕生1周年イベントなど、創意工夫をしながら、子どもが楽しめるイベントを季節ごとに実施した。 ◎貸出点数の増加への対応 地域の団体とコラボした、利用者の目につくような特集や展示、子どもに本を借りてもらうことを目的とした利用促進イベントなどを実施し、来館者数は増加したが、年間での貸出点数の目標には至らなかった。 ◎地域連携の積極的な展開 2022年度に引き続き、「和光大学ポプリホール鶴川」、「鶴川地区協議会」等と連携した。更には、町田市の他部署(市民協働推進課、高齢者支援課等)との「コラボ特集」を行い、LGBTQ、フレイル等、現代的なテーマを情報発信することができた。 2023年度は新たに、「Dフレンズ町田」、「和光大学・山口ゼミ」、「町田インドネシア友好協会」と連携し、それぞれ、コラボ特集やコラボ展示を行った。 年間で特集コーナーを133回、展示コーナーを11回、それぞれ設置した。 その内、町田市の他部署・地域の団体と連携したコラボ特集が42回、コラボ展示が10回だった。 特集や展示の連携の他、「コラボ・フェス」と題した、町田市の各部署や地域の団体を招いたイベントを、2023年10月と2024年3月に開催。多くの方に来場していただき、地域における図書館の存在感をアピールすることができた。 今後もすべての人にとって使いやすい図書館をめざして、館内環境の改善や地域連携の展開、利用者の利便性向上、サービスの質向上の他、特設の棚を常設するなど、貸出点数増加に向けた取り組みを行っている。

5. サービスの質に関する評価

【利用者アンケート調査】

調査概要	【調査期間】 2023年11月21日～11月25日 【配布枚数】 415枚 【回収枚数】 415枚 【回収率】 100% 【調査方法】 アンケート用紙手渡し(回収箱で回収)
------	---

指標1	評価基準		目標	結果	評価
利用者満足度 (総合満足度の項目において 満足・やや満足とつけた利用 者の割合)	A:80%以上 B:60%以上～80%未満 C:60%未満		82%	95.4%	A
指定期間内における実績（単位：%）					
年度	2022	2023	2024	2025	2026
目標値	82	82	82	82	82
実績値	97.4	95.4			

指標2	評価基準	目標	結果	評価	
来館者数 基準値 307,459人 (2019年度実績)	A: 292,087人(95%)以上 B: 245,968人(80%)以上 292,087人(95%)未満 C: 245,968人(80%)未満 ※()は基準値との比較(%)	339,752人 (111%)	353,399人 (114.9%)	A	
指定期間内における実績(単位: 人)					
年度	2022	2023	2024	2025	2026
目標値	330,137 (107%)	339,752 (111%)	349,647 (114%)	359,830 (117%)	370,310 (120%)
実績値	350,194 (113.9%)	353,399 (114.9%)			

指標3	評価基準		目標	結果	評価
貸出点数 (図書・雑誌・紙芝居・視聴覚 資料等) 基準値 463,064点 (2019年度実績)	A: 439,911点 (95%) 以上 B: 370,452点 (80%) 以上 439,911点 (95%) 未満 C: 370,452点 (80%) 未満 ※ ()は基準値との比較 (%)		494,928点 (107%)	429,263点 (92.7%)	B
指定期間内における実績 (単位: 点)					
年度	2022	2023	2024	2025	2026
目標値	485,128 (105%)	494,928 (107%)	504,926 (109%)	515,125 (111%)	525,530 (113%)
実績値	439,047 (94.8%)	429,263 (92.7%)			

【評価対象年度 2023年度】

サービスの質に関する総合評価	所管課所見
A	「利用者満足度(総合満足度)」は、目標値を達成した。 「来館者数」は、指定管理者ならではのイベントを実施したことで、目標を達成した。 「貸出点数」は、新たな団体との連携や利用者の目につくようなコラボ特集・コラボ展示を実施したが、目標値を下回った。町田市立図書館全体でも減少傾向にあり、社会状況やライフスタイルの変化などが影響していると推測される。

【サービスの質に関する評価基準】 A:良好である B:要求水準達成 C:良好ではない

6. 業務履行状況の確認

(1) 指定管理業務の履行状況の確認

大項目	小項目	要求水準	履行状況	適否
平等利用の確保	障がい者に対するの合理的配慮	実践的な講座や研修の実施 図書館における障がい者向けサービスの紹介を行っている	「障がい者サービス担当職員向け講座」をオンライン受講したことを研修報告書及び事業報告書で確認した。また、鶴川図書館の「宅配サービス」利用者の対応を指定管理者が引き継ぎ、サービスを提供していること、読書補助具をカウンターに設置し、補助具の貸出をしていることを現地調査で確認した。	適
	高齢者に対するの配慮	補助器具等の案内を行っている 認知症サポーターの養成	「認知症サポーター養成講座」を受講し、職員全員が認知症サポーターになったことを研修報告書及び事業報告書で確認した。また、拡大鏡などの補助器具の貸出や貸出案内を館内に掲示していることを現地調査で確認した。	適
	子どもの読書活動の推進	「子どもの読書活動の推進に関する法律」に沿った具体的なサービスの創出	子ども向けおはなし会のほか、季節ごとに本に親しめるイベントを実施、また、子ども向け新聞を児童コーナーに設置し、過去3ヵ月分を閲覧できるようにしていることを事業報告書及び現地調査で確認した。	適
施設の運営方針・管理方針	地域の構成員としての地域連携	鶴川地区協議会等と連携している	鶴川地区協議会が主催する「3水スマイルラウンジ」にて、連携した資料展示を毎月実施、また、図書館のリサイクル資料を提供していることを事業報告書及びヒアリングで確認した。	適
	特性を活かしたサービス展開	地域資料コーナー・英語多読コーナー等を拡充し、利用を促進している 近隣大学等への出張登録会の実施	常設のFC町田ゼルビアコーナー内に、対戦する相手チームの地域の「食」に関する特集を開始したほか、和光大学で出張登録会を実施したことを事業報告書、現地調査及びヒアリングで確認した。	適
	民間事業者の新たな事業	民間の特性を活かした新たなサービスを実施している	民間事業者の強みを活かした出版社との連携イベントの実施や久美堂本町田店での予約資料受渡しサービス開始などを事業報告書及びヒアリングで確認した。	適
情報公開・個人情報保護	情報の適正管理	情報セキュリティや個人情報の保護に関する適切な体制の整備と、その体制に沿った取組が行われている	「個人情報保護研修」を職員全員受講していることを研修報告書及び研修資料で確認した。また、指定管理者独自の個人情報保護モニタリング及びヒアリングを実施していることを図書館用内部監査チェックリストで確認した。	適
	公的な資格	公的な資格の承認を受けている	「プライバシーマーク」取得企業であることを、日本情報経済社会推進協会のホームページ上で確認した。	適
要望対応	意見要望の把握	利用者からの要望等を把握するための組織的な方策を実行している	「利用者の声」を設置し、意見要望の有無を毎日確認していることを現地調査及び業務日誌で確認した。また、イベント時にも参加者にアンケートを実施し、都度、意見聴取していること、また、その内容を職員全員に共有していることをヒアリング及びアンケート結果で確認した。	適
	利用マナー向上・啓発	マナーブックの配布	中高生を対象に、オリジナルマンガを取り入れた啓発マナーブックを配布しているほか、利用者に対しても、マナーアップとして、オリジナルマンガを館内に掲示していることを現地調査及びヒアリングで確認した。	適

【評価対象年度 2023年度】

危機管理	事故や非常事態への備え	非常事態対応マニュアル(危機管理マニュアル等)の作成 施設全体の災害訓練等への参加	危機管理対策マニュアルが作成され、対応事例の掲載や適宜改正されていることを最新版の対策マニュアルで確認した。 また、施設全体の防災訓練参加や自己学習として自衛消防活動の映像を視聴したことを研修報告書及びヒアリングで確認した。	適
	保険の加入	傷害保険や施設賠償責任保険等に加え、事故処理等適切に対応している	施設賠償責任保険に加入していることを証書にて確認した。また、2023年度も事故がなかったことをヒアリングで確認した。	適
人的安定性	専門性の担保	有資格者や責任者を適切に配置している	適切に配置されていることを業務日誌で確認した。	適
	雇用の安定性	職務能力等に対応した適正な給与体系が整っている雇用の定着に努めている	職務に応じた給与体系であることを雇用契約書または労働条件通知書、給与規程で確認した。 年度内に離職者は2名いたが、雇用の定着に向けて、1年目は有期雇用とし、2年目からは無期雇用に転換する取組を実施していることをヒアリングで確認した。	適
	研修等	技術向上、自己啓発等の研修・研鑽を組織的に実施している	職員は年間を通して研修を受講し、研修内容を他の職員にも共有していることを研修報告書及びヒアリングで確認した。	適
管理経費の縮減	事業実施時の費用の軽減	民間業者の特性を活かして、経費節減に努めている	イベントのチラシやポスターは外注せず、構成企業で作成し、経費を抑えていることをヒアリングで確認した。	適
	光熱水費・施設の維持管理費	開館日拡大したことに伴う維持経費の増加を抑えている	電気使用量が2022年度と比べ、約5%減っていることを、施設のエネルギー使用量を管理するクラウドシステムで確認した。	適
地元貢献	市民雇用	地域住民を積極的に採用している	職員23名中、6名が町田市在住であることを職員名簿で確認した。	適
	市内事業者	市内業者から優先して調達している	市内事業者から消耗品や雑誌を購入しており、優先して調達していることを請求書及び納品書で確認した。	適
	地域との連携	地域団体や近隣の大学・学校と連携した事業を実施している	和光大学のゼミやFC町田ゼルビアなどの地域の団体と連携した目玉事業「コラボ・フェス」を実施したことを事業報告書及びヒアリングで確認した。	適
	ボランティアとの協働	ボランティア交流会・ボランティア養成講座を実施している	ボランティアとは適宜、交流会をしていること、また、技術向上のため、指定管理者やボランティアから、レクチャーやアドバイス、情報の共有を実施していることをおはなし会記録簿及びヒアリングで確認した。	適
図書館運営	選書・蔵書の管理	書架整理を常に行い、適切な状態を維持している蔵書の有効活用に取り組んでいる	巡回表を作成し、書架整理や書架状況把握、また、常設の特集コーナーを館内に10箇所設置し、利用者の目に入るよう工夫していることを現地調査で確認した。	適

(2)業務実施体制の確認

大項目	小項目	要求水準	モニタリング結果	適否
モニタリングその他	会計・経理モニタリング	会計・経理実施状況チェックシートの全ての確認項目が「適」である。	2024年3月4日に、会計・経理モニタリングを実施し、全ての項目が「適」であることを確認した。	適
	労働条件モニタリング	労働条件チェックシートの全ての確認項目が「適」である。	2024年3月4日に、労働条件モニタリングを実施し、全ての項目が「適」であることを確認した。	適

業務履行状況の確認結果(適否)	所管課所見
適	要求水準を満たしていることを、現地調査、年間事業報告書、各種帳票及びヒアリングで確認した。

【評価対象年度 2023年度】

7. 財務・収支状況の確認

(1) 公の施設に係る収支

単位:千円

年度 項目			2022			2023			2024		
			予算(当初)	予算(変更後)	決算	予算(当初)	予算(変更後)	決算	予算(当初)	予算(変更後)	決算
収入	指定管理料		86,313	88,129	88,129	87,130	88,330	88,330	88,074		
	自主 事	複写料金	110	110	38	110	54	50	110		
		その他	0	0	0	0	0	0	0		
	計		86,423	88,239	88,167	87,240	88,384	88,380	88,184		
支出	人件費		80,574	79,764	79,765	81,506	80,677	80,677	82,450		
	事務費		595	915	1,842	595	760	1,050	595		
	管理費		3,839	3,403	3,660	3,854	4,531	3,446	3,854		
	事業費		1,305	2,781	2,683	1,175	2,362	2,166	1,175		
	自主 事	複写料金	60	60	136	60	150	149	60		
		その他	400	400	135	400	300	274	400		
		計		86,773	87,323	88,221	87,590	88,780	87,762	88,534	
総計(収入-支出)			-350	916	-54	-350	-396	618	-350	0	0

年度 項目			2025			2026		
			予算(当初)	予算(変更後)	決算	予算(当初)	予算(変更後)	決算
収入	指定管理料		89,028			89,994		
	自主 主 事	複写料金	110			110		
		その他	0			0		
	計		89,138			90,104		
支出	人件費		83,404			84,370		
	事務費		595			595		
	管理費		3,854			3,854		
	事業費		1,175			1,175		
	自主 主 事	複写料金	60			60		
		その他	400			400		
計		89,488			90,454			
総計(収入-支出)			-350	0	0	-350	0	0

(2) 指定管理者本部 ※共同事業体の場合、原則として代表企業を記載する。

単位:%

年度	2022	2023	2024	2025	2026
経常利益率	-0.9	0.3			
負債比率	15.0	14.2			

【経常利益率(%)】経常利益 / 売上高 × 100(小数点以下第2位を四捨五入)

【負債比率(%)】負債(他人資本) / 資本(自己資本) × 100(小数点以下第2位を四捨五入)

財務状況に関する確認結果(適否)	所管課所見
適	2022年度に続き、光熱水費高騰に対応するため、指定管理料を増額した。 経常利益率がマイナスからプラスに転じ改善した。 また、負債比率も良好であり、指定管理事業は概ね適切な執行で安定的に運営できていた。